



千葉県 副知事
滝川 伸輔 Shinsuke Takigawa

昭和62年 4月 自治省採用
同 財政局地方債課
7月 福岡県総務部地方課
平成元年 4月 自治省大臣官房総務課
2年 11月 同 行政局公務員部公務員課
平成4年 4月 鳥取県総務部広報文書課長
平成5年 4月 同 市町村振興課長
平成7年 4月 同 財政課長
平成8年 8月 通商産業省基礎産業局総務課課長補佐
平成10年 4月 自治省行政局選挙部政党助成室課長補佐
平成10年 10月 人事院短期在外研究員
(ニューヨーク大学・カリフォルニア大学パークレー校)
平成11年 4月 自治省行政局公務員部能率安全推進室課長補佐
兼 行政局行政体制整備室課長補佐
平成11年 8月 総理府内政審議室民間資金等活用事業推進室課長補佐
平成12年 4月 自治省税務局企画課課長補佐
平成13年 1月 総務省自治税務局企画課課長補佐
平成14年 2月 内閣府参事官補佐
平成15年 4月 奈良県総務部長
平成19年 7月 同 副知事
平成20年 4月 内閣官房内閣参事官
平成22年 7月 自治体国際化協会シドニー事務所長
平成24年 7月 国土交通省航空局航空ネットワーク環境・地域振興課長
平成26年 7月 総務省自治財政局地方債課長
平成27年 7月 同 自治行政局地域政策課長
平成28年 6月 同 自治財政局公営企業課長
平成29年 7月 千葉県副知事

地域の宝に光を当てる

副知事の仕事

平成29年7月に、県議会の同意議決を頂いた上で、森田健作知事から千葉県副知事に任命されました。

副知事の仕事は、知事のリーダーシップを支えて、担当部局を統括し、知事のビジョンの施策・事業への具現化、知事の的確な決断を仰ぐための問題整理、県職員・県庁組織が風通し良く前向きに仕事がしやすい環境整備、さらに県議会、市町村をはじめ各界の関係者、報道機関や国の各省庁等とのコミュニケーションや調整などを行うことです。

2020年東京オリンピック・パラリンピック(県内で8競技開催)を控えた本県では、交通ネットワークの充実強化も進んでいます。この好機に、農林水産業、商工業、観光の振興や、スポーツ・文化の振興と共生社会の推進、また、保健・医療・福祉の体制強化を進めることが私の主な担当分野です。

地域の宝に光を当てる

「千葉県の宝」と言える各地域、各分野の豊富な地域資源と人材に光を当て、情報発信し、磨きをかけてお手伝いをしながら、県民の皆様がより安心して、豊かに、生きがいと誇りをもって暮らせる千葉県づくりに携わることが、実にやりがいのある仕事です。

本県での勤務は初めてなので、本や資料、職員の説明に加え、努めて各界関係者の声を直接聞くとともにできる限り足を運んで現場の状況を確認

し、多様な課題解決に奮闘する日々です。休日に県内各地を訪ね歩くことも楽しみにしています。こうして五感で集めた県内の情報に、最新の国内外の動向や、国・他県勤務で得た知識・経験なども加味して、より効果的に仕事が進むよう構想を練り、庁内外の議論とアクションの活性化を図っています。

初心忘るべからず

「初心忘るべからず」という世阿弥の言葉があります。能楽の世界では、より高い境地を目指し、年齢や時々の試練に応じて工夫を重ね、新しい自分になろうと挑戦する心(=初心)を持ち続けよ、という意味でも使われるようです。

旧自治省入省以来、幸いにも節目ごとにこの「初心」を持つチャンスを与えられてきました。福岡県で職業人生が実質的に始まり、20代で鳥取県の課長に、奈良県では30代で部長、40代で副知事に登用して頂いたとき、勇躍奮い立つ気持ちとともに、自分に本当に良い仕事ができるだろうかという畏れとプレッシャーも感じていました。

しかし、目標に向かって誠実に、ただし少し背伸びをしながら、努力と工夫を重ねるうちに、職責を果たせるようになっていた、そうしたことの繰り返しだったように思います。

30年を振り返って

これまで都市でも農山漁村でも、各地で産業、自然、歴史文化などの地域の宝に光を当てる仕事

をしてきた経験が現職にも活かしていますし、苦楽を共にして取り組んだ官民の仲間たちとの人の輪は、職業人として築いてきた最高の財産です。

国での各階層の管理職昇任も、私の場合は他省庁出向時に経験したので、初めて担当する産業政策、航空行政、安全保障・危機管理等の業務に初めは戸惑いました。それでも、密度の濃い地方勤務を積み重ねる中で、地域での固有の経験を理論的な観点や全国的な文脈に位置づけて見つめ直す習慣がついたことは、霞が関にいても地域の行政課題を素早くとらえ、政策を深く掘り下げ幅広い視野から企画立案、実施することに役立ってきたと思います。

総務省でのキャリア形成は、常にその時点の自分には少し難しい立場と課題に挑戦し、新しい自分へと成長するチャンスに恵まれています。不確実性だらけの課題先進国日本の成長と発展に、アイデアと行動力で貢献しようという意欲ある若いみなさんに、自信をもってお勧めできる進路だと申し上げて筆を擱きます。



鏡子漁港の水産まつりに参加して



香川県 政策部 自治振興課長
大熊 智美 Tomomi Okuma

平成21年 4月 総務省入省
同 自治税務局企画課
8月 岩手県地域振興部市町村課
平成22年 4月 同 政策地域部市町村課
8月 環境省総合環境政策局環境経済課
(平成23年4月～平成24年4月)
併任 総務省自治行政局地域政策課)
平成24年 4月 総務省自治税務局固定資産課
平成26年 7月 同 自治財政局公営企業課
平成27年 4月 香川県政策部地域活力推進課主幹
平成28年 4月 同 政策部地域活力推進課長
平成29年 4月 現職

霞が関を飛び出して果敢に挑戦する

豊かに暮らし、豊かに働く

玄関を開けると目の前には真っ青な瀬戸内海! そんな暮らしがスタートして3年の月日が流れようとしています。

香川県に赴任して最初の2年間は、地方創生、離島振興、移住・定住の促進など幅広い業務に取り組まれました。そして現在は、県内8市9町の行財政や選挙、地方創生など市町の根幹に関わる業務のサポートを行っています。

3年間を通じて心がけているのは地域の実情を十分に理解した上で丁寧な議論をすること。そのためには法令や通知にとらめっこするばかりではなく、自分の五感をフルに活かして情報を収集することが大切であると感じています。また、良い意味で「ワーク」と「ライフ」の垣根を取り払い、日々の暮らしの中で豊かな経験を積み重ねることが、地域の実情を理解することに繋がり、ひいては豊かな仕事に繋がるのではないかと感じています。

はじめての地、はじめての管理職

縁もゆかりもないはじめての地で、若くして「課長!」と呼ばれることに戸惑いや不安が全くなかったかと言えば嘘になりますが、はじめて尽くしたからこそ少しでも新しい風を吹き込めたらという思いで仕事に取り組んでいます。

管理職に求められる重要な役割の1つは、議会答弁やマスコミ対応など課を代表して説明責任を果たすこと。正確な情報を伝えることはもちろん、

どうしたらわかりやすく伝えられるか日々試行錯誤しながら伝える力を磨いています。

また、課のマネジメントも管理職の重要な仕事の1つです。現在の課も限られた人数でボリュームのある仕事を行っています。全体の仕事を把握して優先順位やメリハリを付け、できるだけ効率的に仕事を進めることで、課員誰もが心身ともに健やかに、そして少しでも楽しく働ける職場を目指しています。

まだまだ自分の経験、発想力の乏しさに悔しい思いをすることもありますが、これまで培ってきた知識や人脈を活かしささやかながら誰かの役に立つことができたときは心から嬉しく思います。若くして管理職を経験させていただけるこの機会を存分に活かし、最大限自分の能力を伸ばせるよう努力したいと思っています。

これまでの10年をこれからの10年に繋げる

総務省に入省して約10年、2度の地方赴任、本省での制度づくり、他省庁への出向…振り返ってみれば本当に沢山の出会いと成長の機会に恵まれた10年間でした。ちなみにこの間、プライベートでも結婚という大きな変化があり、現在は単身赴任という形で香川県にきています。新たなフィールドで挑戦してみたいという私の思いに寄り添い、いつも誰よりも応援してくれる夫のためにも、香川県でしっかりと成長して帰らなければいけないと思っています。

さて、あらためて、入省10年目という節目の年に

強く思うことは、これまでの出会いや経験をこれからはしっかりと繋げていきたいということ。特に、2度の地方赴任を通じて、この国を良くしていきたいという漠然とした思いにとどまらず、手を差し伸べたい大切な人の顔や守りたい大好きな風景が思い浮かぶようになったことを自身の強みとしながら、これからも様々なフィールドで果敢に挑戦していきたいと思っています。

人口減少、少子高齢化…そんな厳しい時代だからこそ私たち公務員の仕事はやりがいがあるとプラス思考な私は考えています。さあ!皆さん、挑戦する準備はできていますか? 厳しさを乗り越え、面白い時代を創っていこうという気概のある皆さんとともに総務省で働ける日を心から楽しみにしています。



鳥のお父さんと草刈り



地域活力推進課メンバーと